

電磁波とプラズマの相互作用による粒子加速

宇宙物理学研究室

⇒ *aplab security*
measures

長谷部英賢

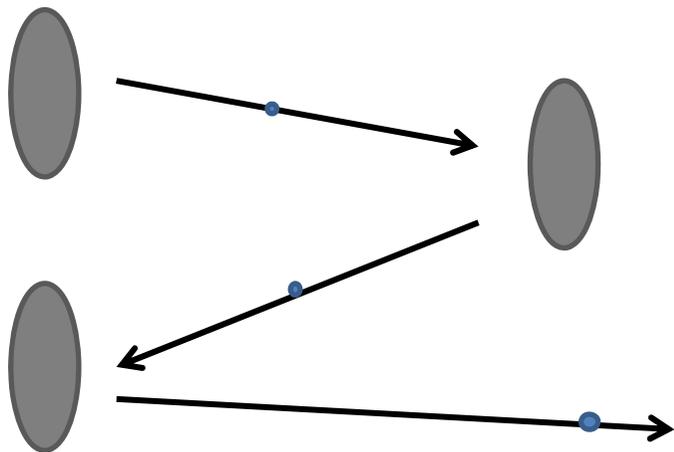
発表の流れ

1. 粒子の加速機構
2. 目的、方法
3. 基礎方程式、PICコードの計算法
4. シミュレーションモデル
5. プラズマ中の分散関係、伝播
6. プラズマ波の励起、粒子加速
7. まとめ

宇宙空間での粒子の加速機構

1次フェルミ加速

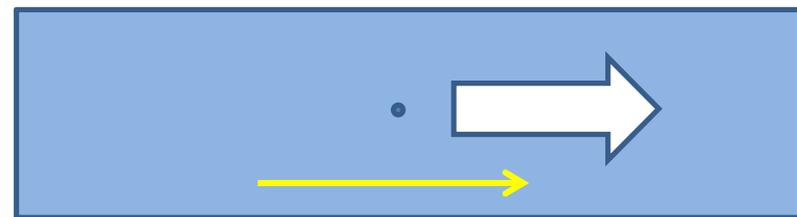
従来提案されてきた機構



衝撃波の間で反射をくり返すことで加速

航跡場加速

今回調べる機構



E

プラズマ中の電場によって加速

フェルミ加速よりも速く加速できる可能性がある

目的、方法

粒子コードを用いて航跡場加速による粒子の加速過程を調べる

- プラズマ中の電磁波の伝播、分散関係
- 電磁波によるプラズマ波(プラズマ中の電荷密度の振動)の励起
- プラズマ波による粒子加速

用いる粒子コードは高橋博之さんの作成されたものを使用させていただく

基礎方程式

Maxwell方程式

$$\nabla \cdot \mathbf{E} = 4\pi\rho$$

$$\nabla \cdot \mathbf{B} = 0$$

$$\nabla \times \mathbf{E} = -\frac{1}{c} \frac{\partial \mathbf{B}}{\partial t}$$

$$\nabla \times \mathbf{B} = \frac{4\pi}{c} \mathbf{j} + \frac{1}{c} \frac{\partial \mathbf{E}}{\partial t}$$

運動方程式

$$m \frac{d\mathbf{u}}{dt} = q(\mathbf{E} + \frac{1}{c\gamma} \mathbf{u} \times \mathbf{B})$$

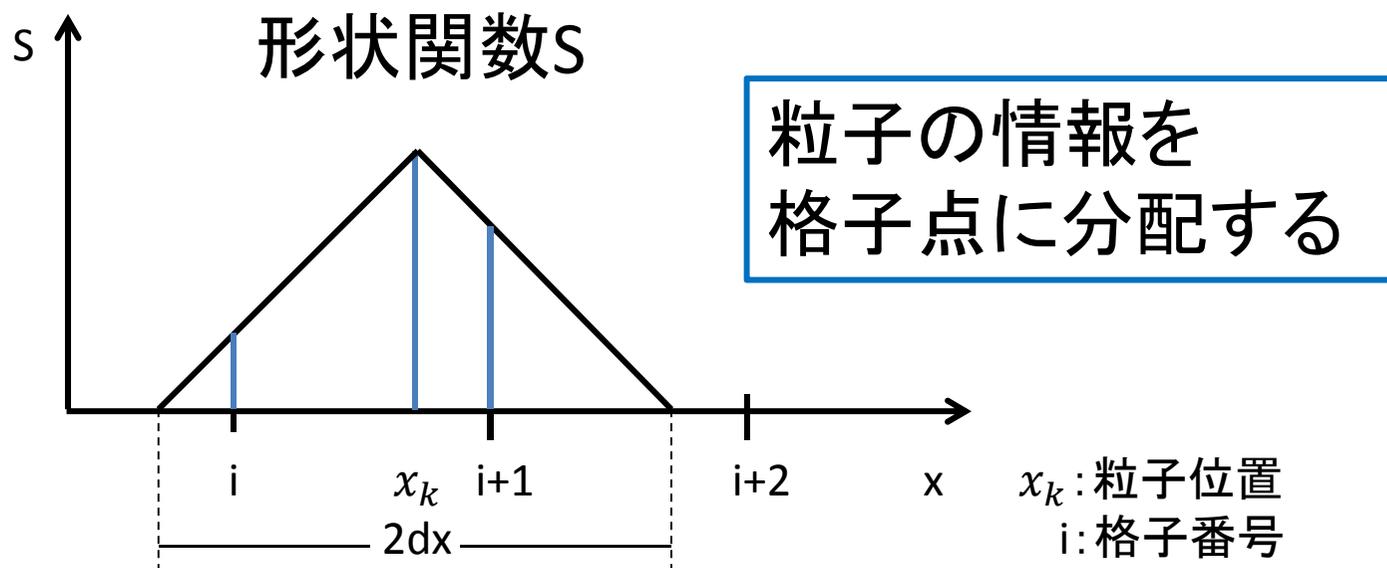
$$\mathbf{u} = \frac{\gamma \mathbf{v}}{1}$$

$$\gamma = \frac{1}{\sqrt{1 - \frac{v^2}{c^2}}}$$

$$\mathbf{v} = \frac{d\mathbf{r}}{dt}$$

PICコード

- $x, v \rightarrow$ 各粒子について運動方程式
- $E, B \rightarrow$ 各格子点でMaxwell方程式
- 粒子の物理量 \longleftrightarrow 格子点の物理量



計算の流れ

運動方程式: 速度の計算

$$m \frac{d\mathbf{u}}{dt} = q \left(\mathbf{E} + \frac{1}{c\gamma} \mathbf{u} \times \mathbf{B} \right), \mathbf{u} = \gamma \mathbf{v}$$

速度から位置の計算

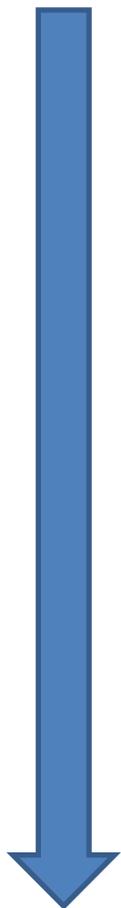
$$\mathbf{v} = \frac{d\mathbf{r}}{dt}$$

位置、速度から電流密度の計算

$$\mathbf{j} = nq\mathbf{v}$$

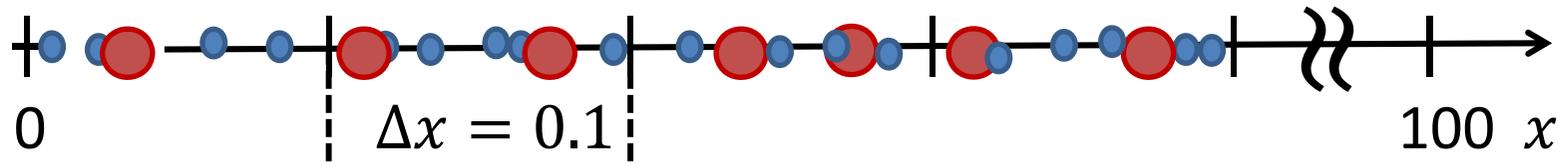
Maxwell方程式: 電磁場の計算

$$\nabla \times \mathbf{E} = -\frac{1}{c} \frac{\partial \mathbf{B}}{\partial t}, \nabla \times \mathbf{B} = \frac{4\pi}{c} \mathbf{j} + \frac{1}{c} \frac{\partial \mathbf{E}}{\partial t}$$



シミュレーションモデル

空間1次元 電子-陽子プラズマ



メッシュ数 $n_x = 1000$

粒子数/メッシュ: $N_e = 200, N_p = 200$

周期境界条件

光速 $c = 1$

(電磁場、速度等は3次元成分をもつ)

プラズマ中の電磁波の分散関係

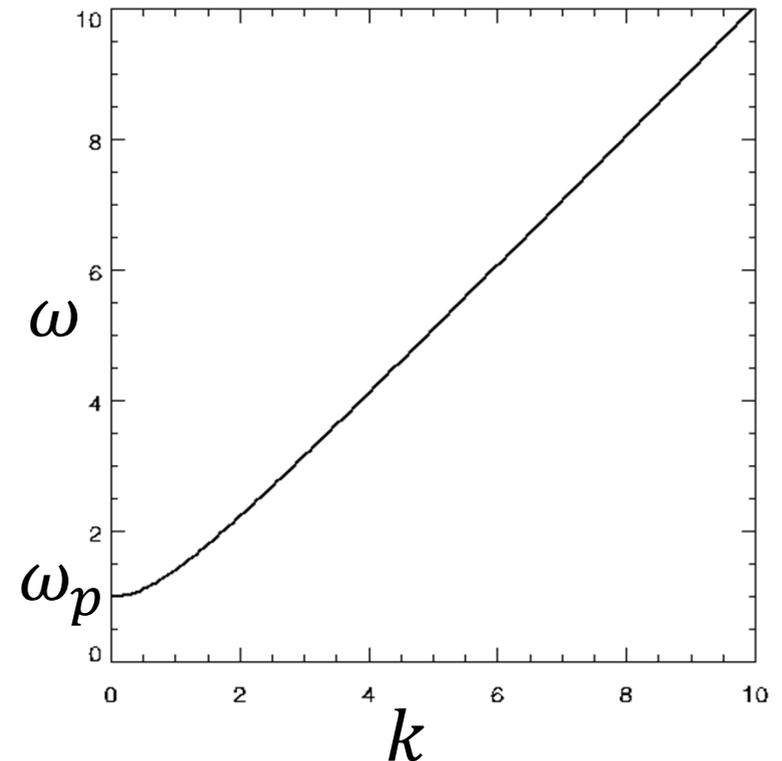
Maxwell方程式、電子の運動方程式から

$$\nabla \times (\nabla \times \mathbf{E}) = \left(\frac{4\pi n_e q^2}{m_e} - \frac{\partial^2}{\partial t^2} \right) \frac{\mathbf{E}}{c^2}$$

$\mathbf{E} \propto e^{i(\mathbf{k} \cdot \mathbf{x} - \omega t)}$ とすると

$$\omega^2 = \omega_p^2 + c^2 k^2$$

$$\omega_p = \sqrt{\frac{4\pi n_e q^2}{m_e}} \text{ プラズマ振動数}$$

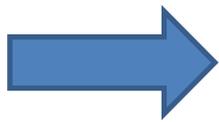


プラズマ中の電磁波の伝播

分散関係から

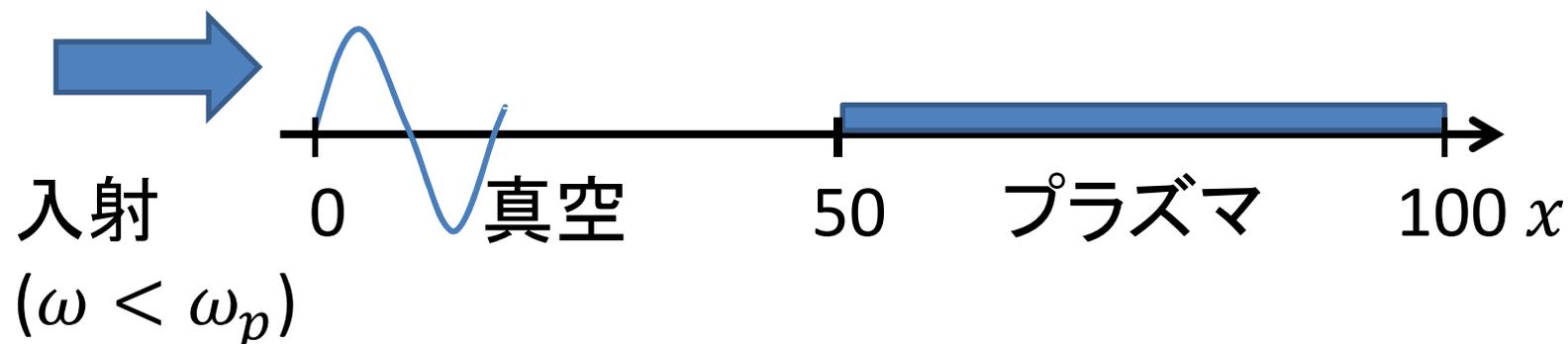
$$k = \frac{\sqrt{\omega^2 - \omega_p^2}}{c}$$

$\omega < \omega_p$ ならば k は純虚数



電磁波は指数関数的に減衰
プラズマに入り込めない

電磁波の減衰シミュレーション



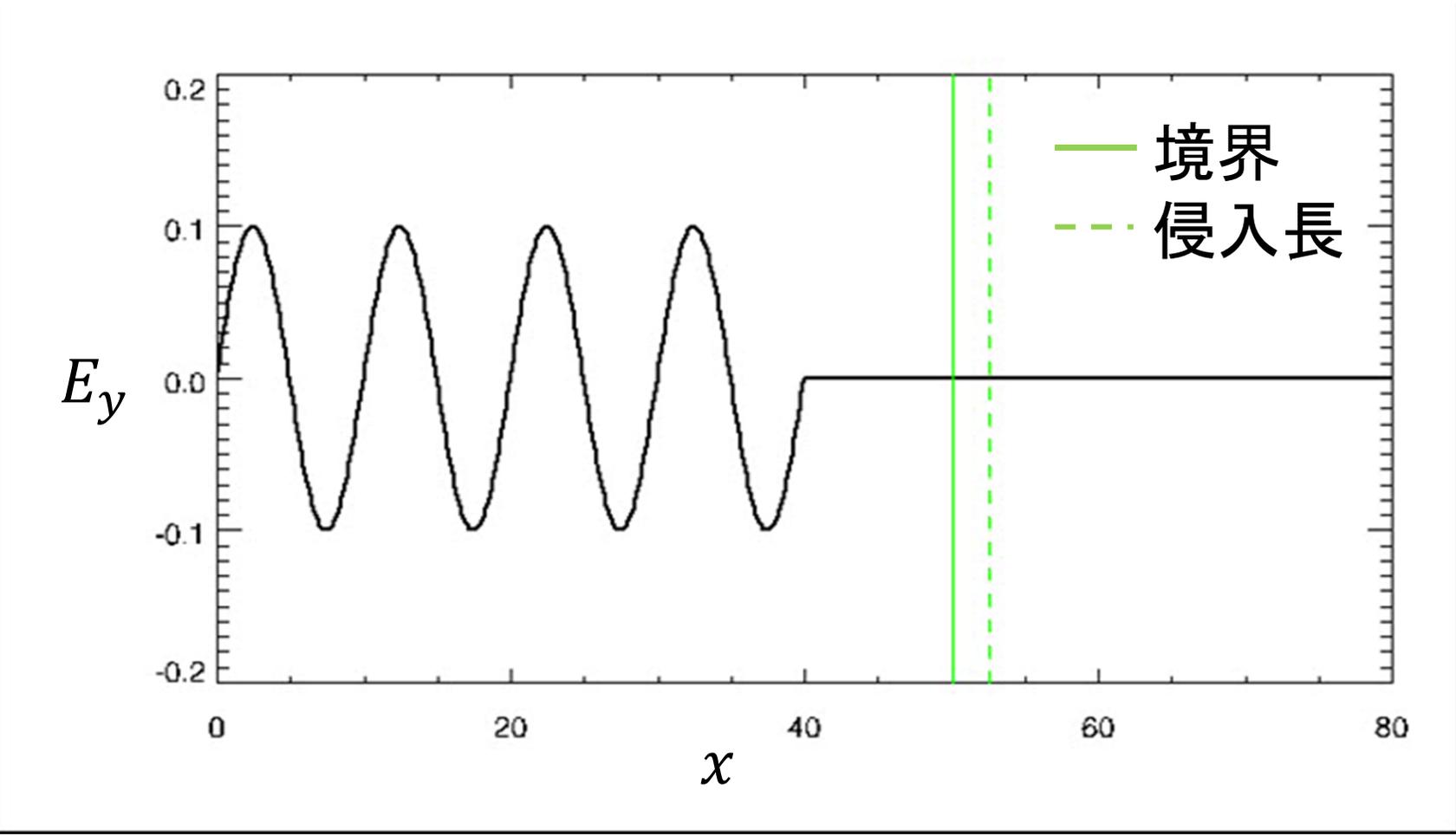
入射波

$$\omega = 0.6$$

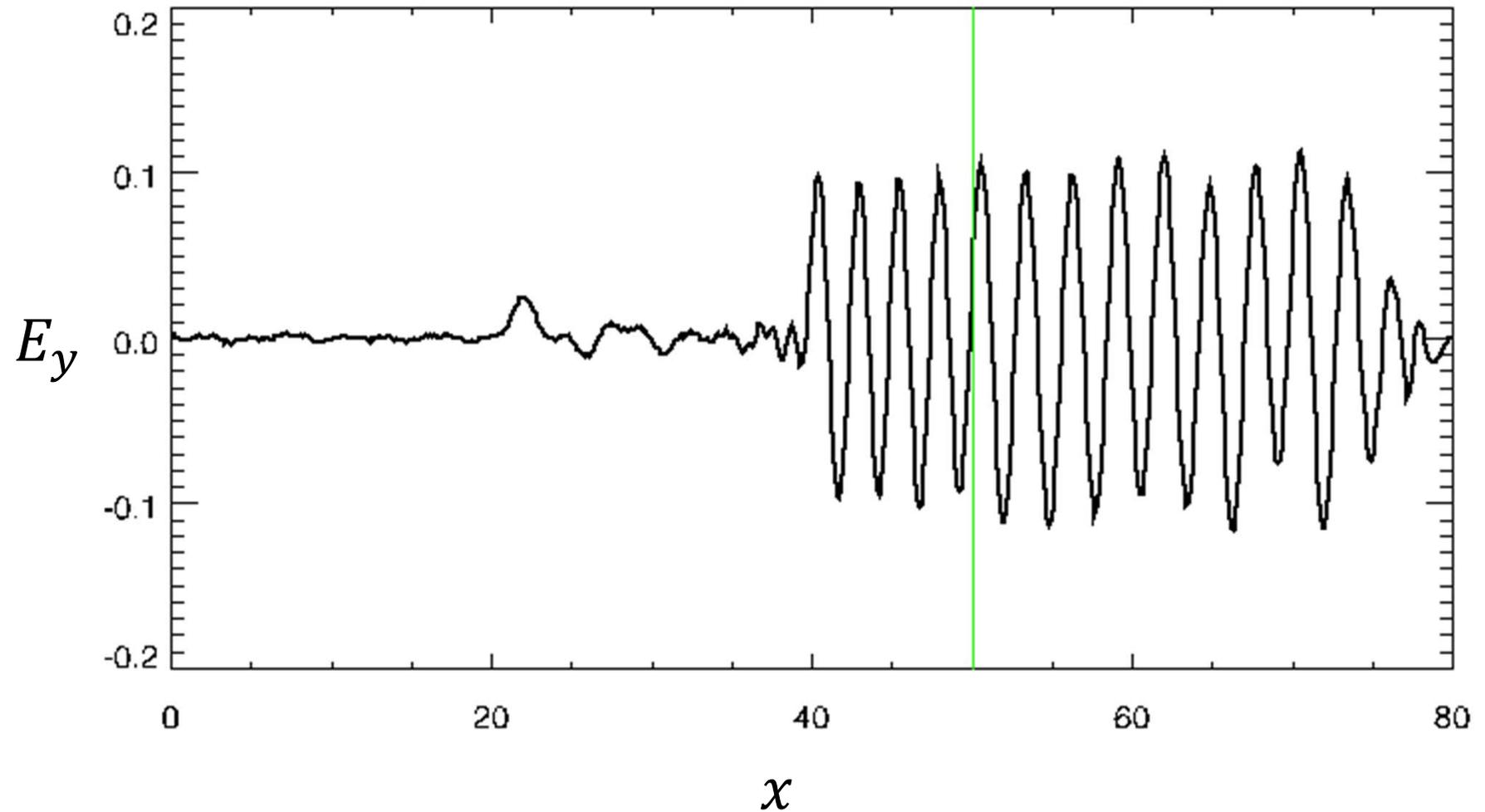
$$|E_y| = |B_z| = 0.1$$

$$\omega_p = 1$$

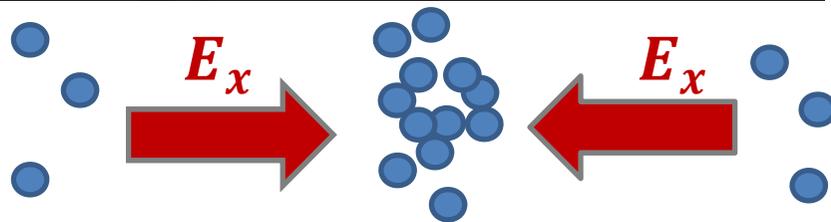
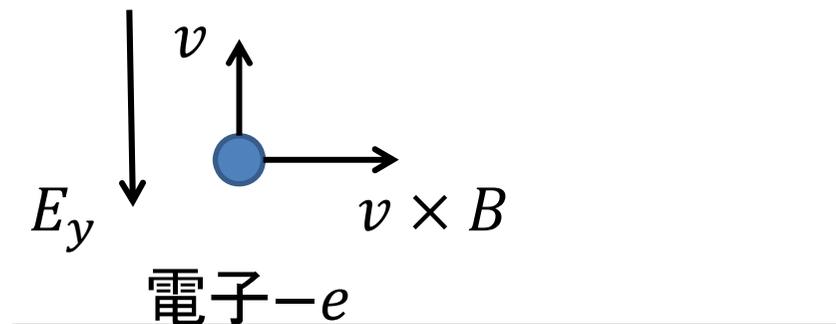
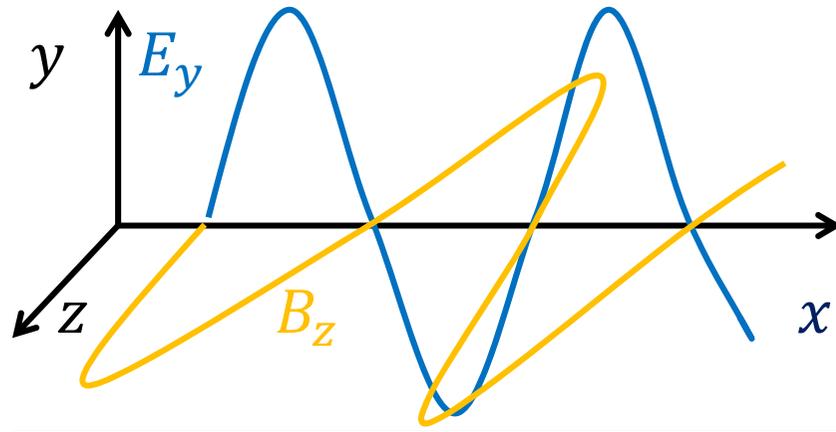
$$\text{侵入長} : \frac{c}{\sqrt{\omega_p^2 - \omega^2}}$$



$\omega = 2\omega_p$ とした場合



プラズマ波の励起



E_y, B_z をもつ電磁波をプラズマに入射

→ ローレンツ力： x 方向
電子が x 方向に動かされ粗密が発生

→ 粗から密へ電場

→ 電場によって電子が動き新たな粗密が発生

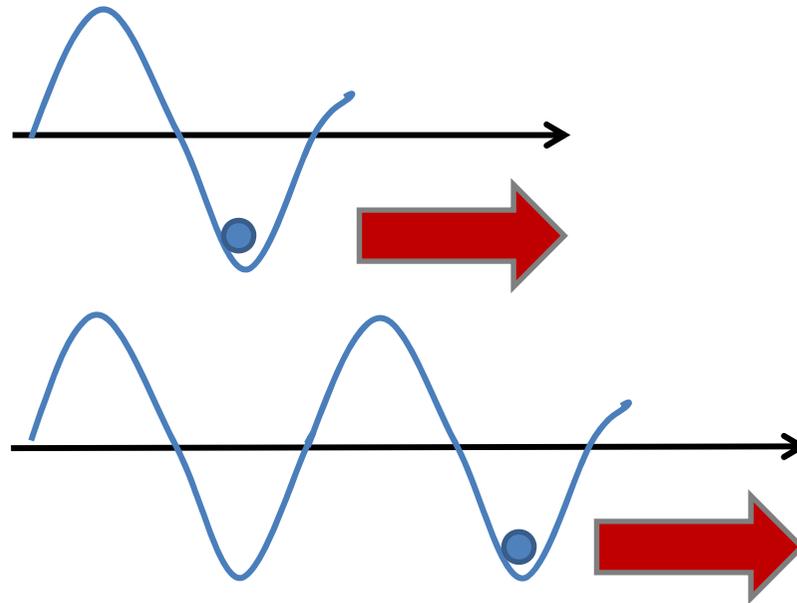
くり返され波動となる



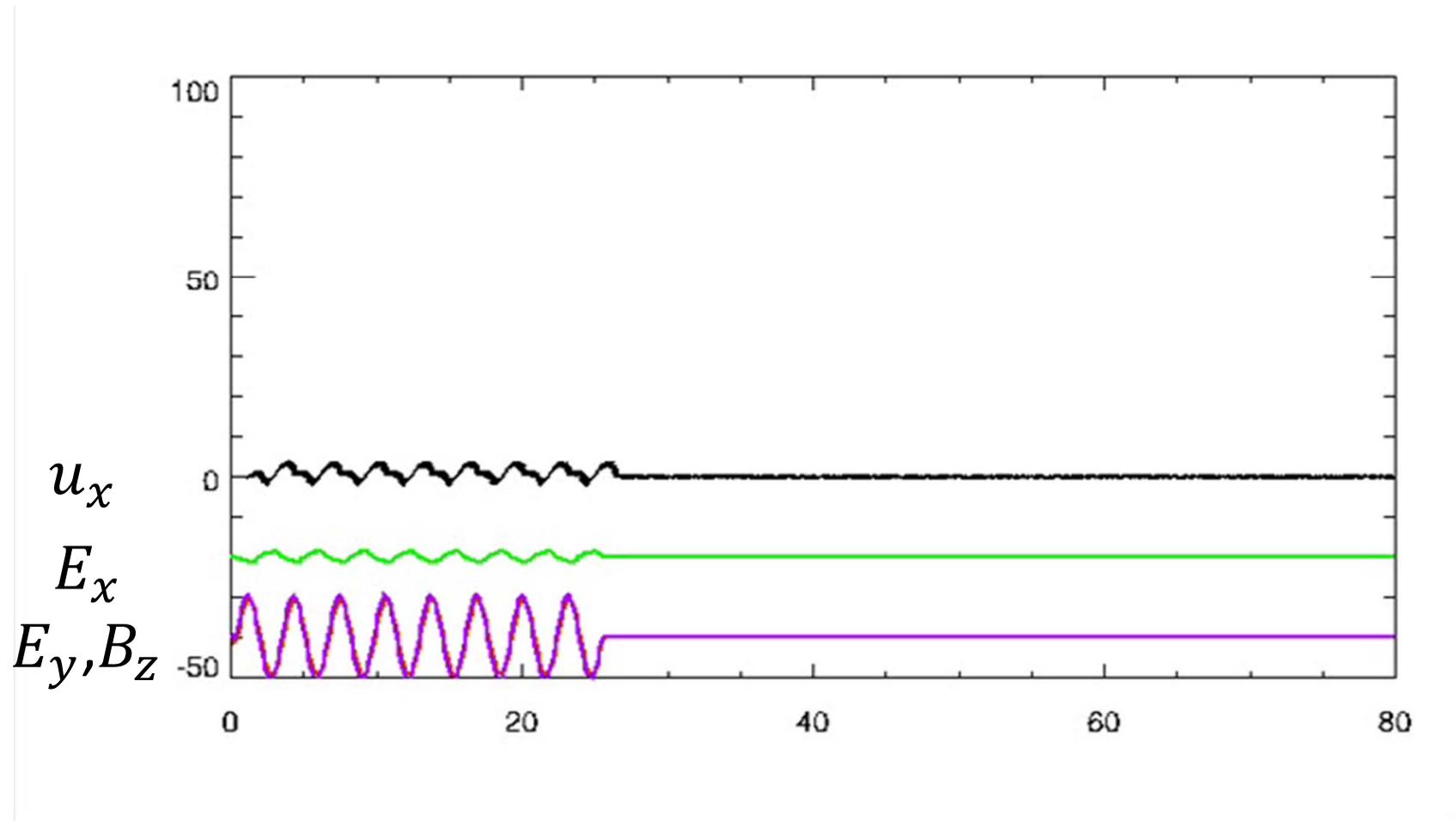
プラズマ波による粒子加速

プラズマ波の位相速度 = 入射波の群速度 $\approx c$

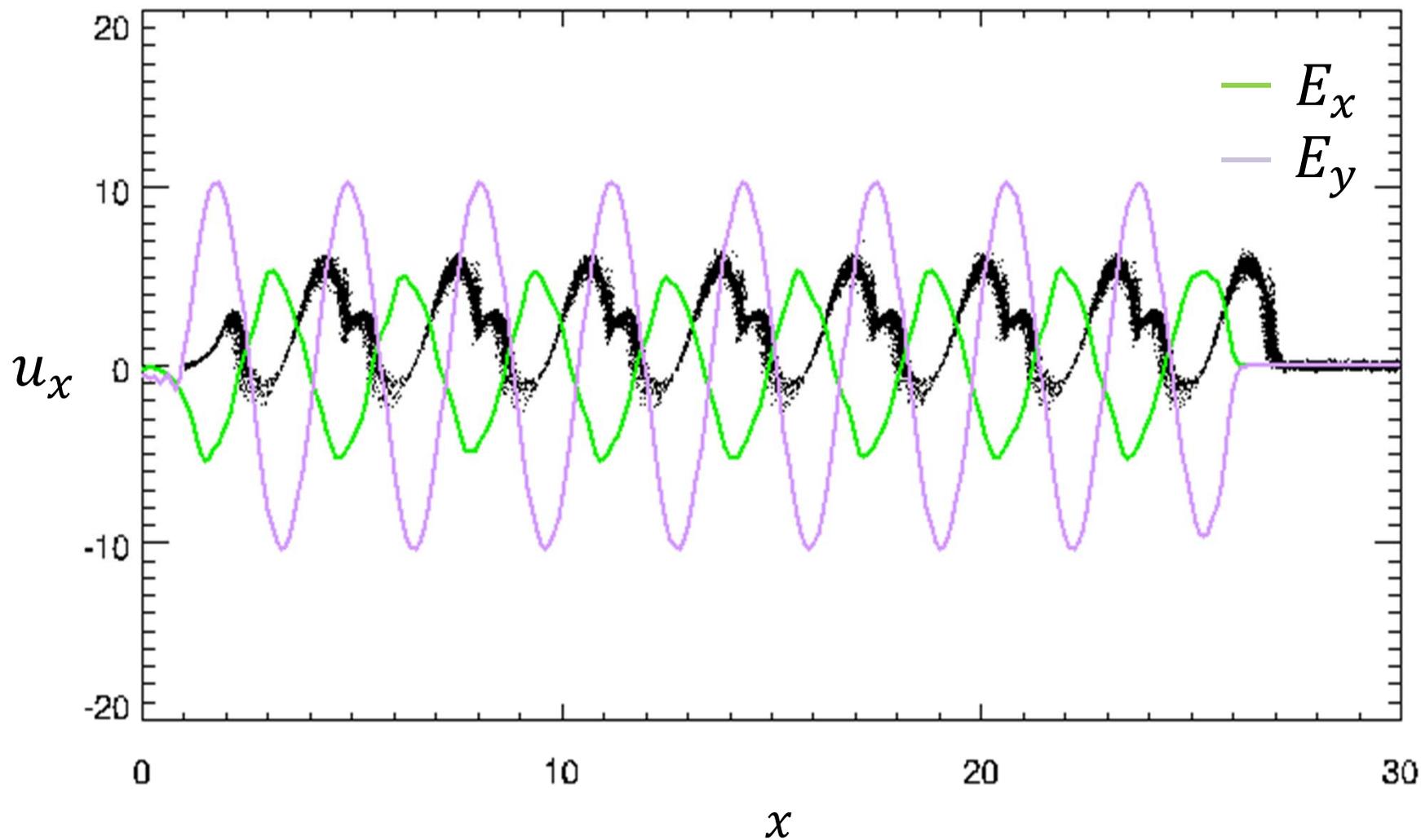
 光速に近い粒子と共に進み加速し続ける



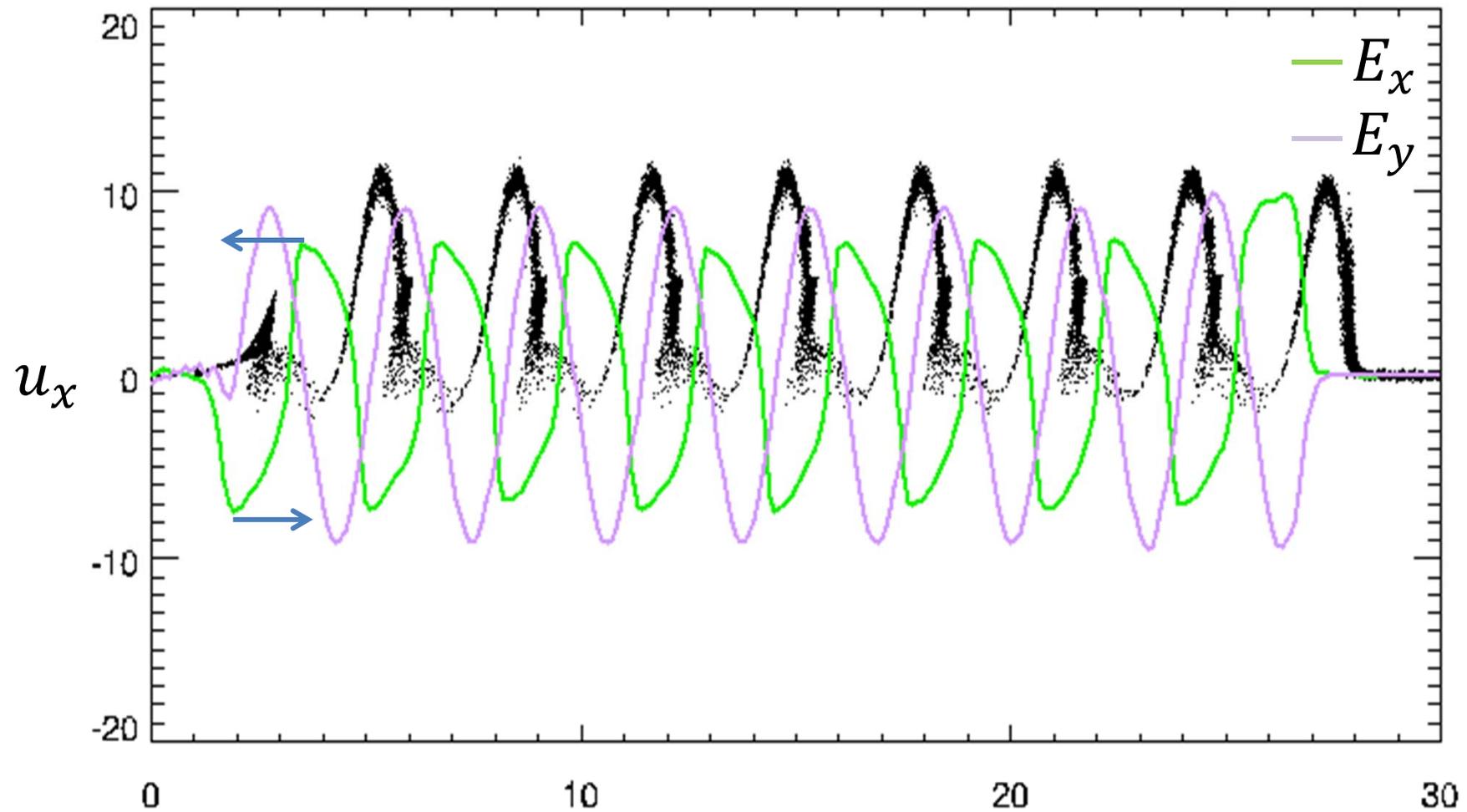
入射波振幅: 10 粒子の位相空間分布



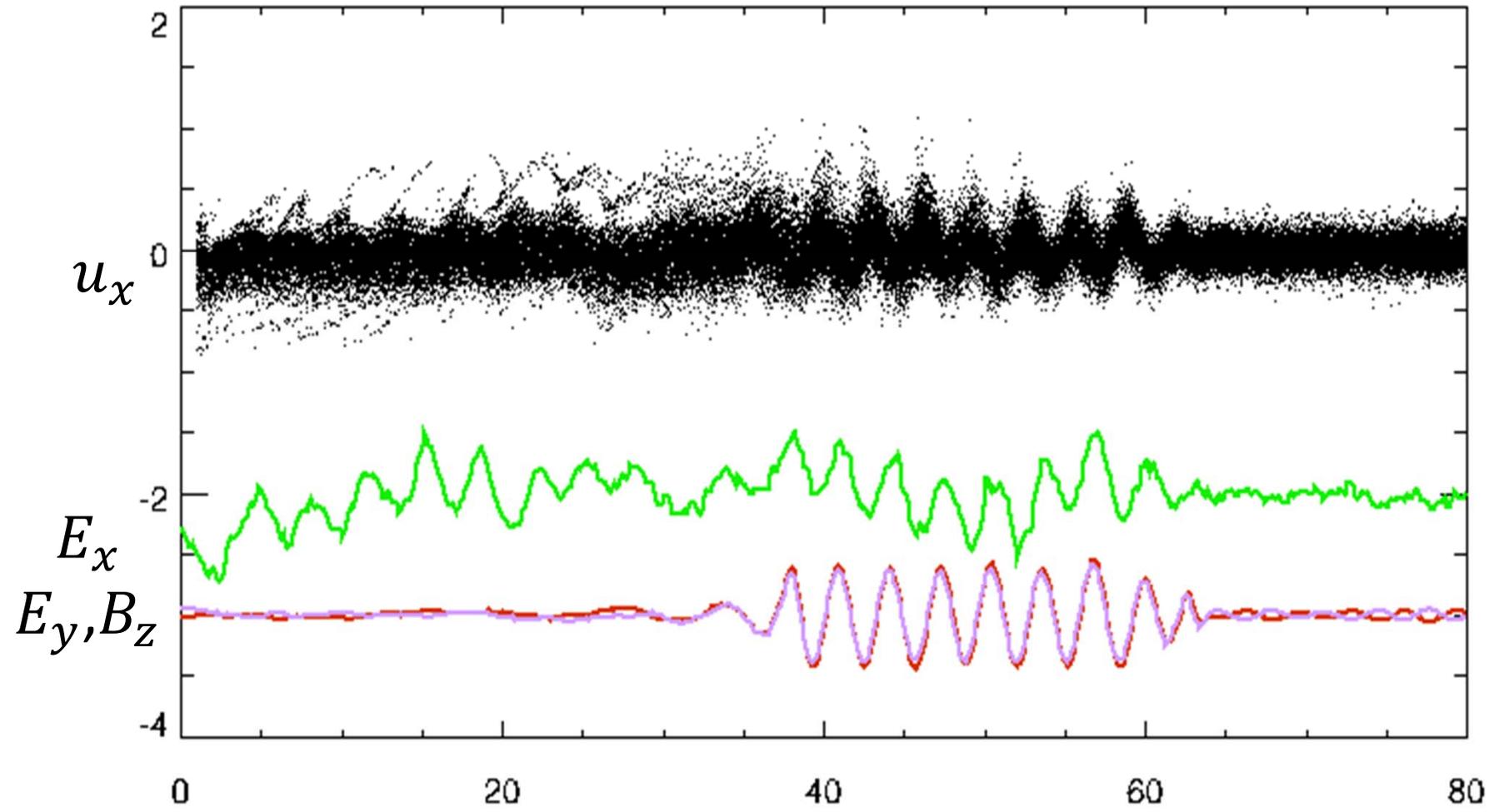
$t = 1$ E_x による加速が見える



$t = 2$ ローレンツ力により波形が歪む

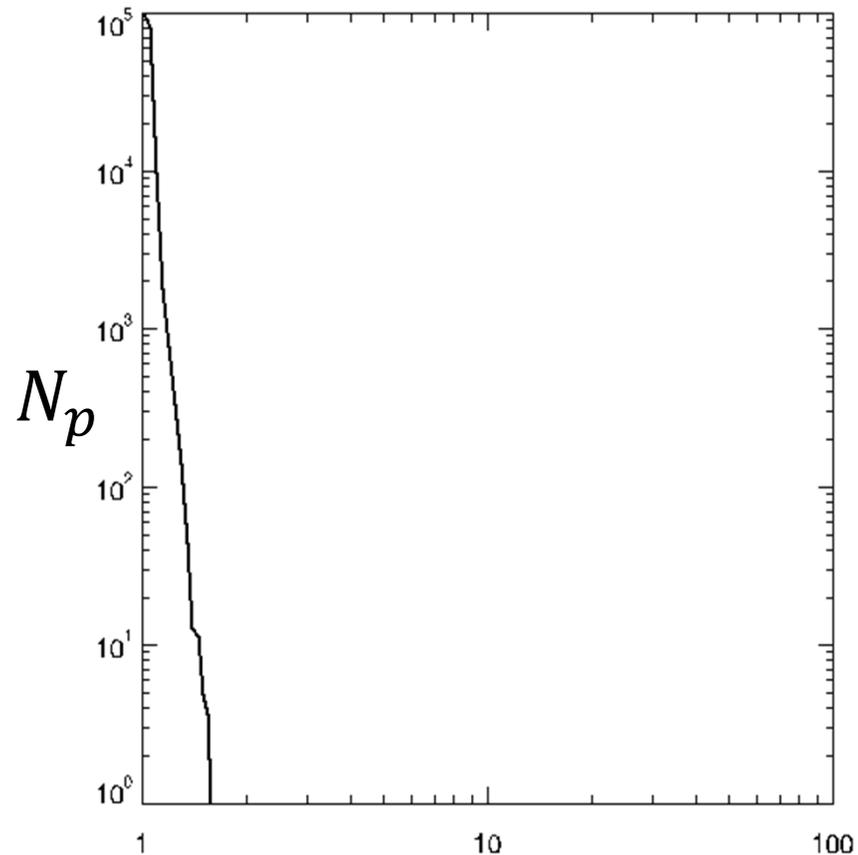


入射波振幅0.5

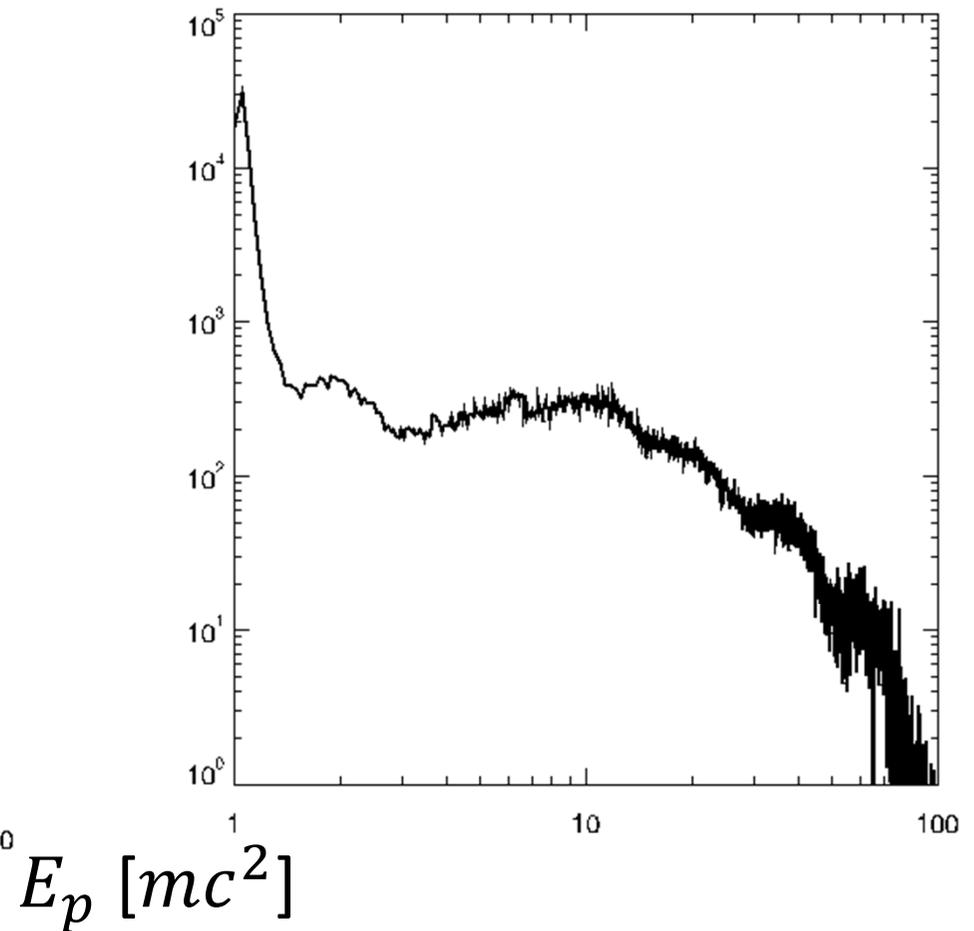


エネルギースペクトル

入射波振幅0.5

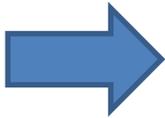


入射波振幅10



まとめ

- 振幅は E_y よりも E_x のほうが小さかったが
加速は y 方向よりも x 方向のほうが大きかった

 入射波による加速ではなく
プラズマ波による加速

- 加速域はごく短い(プラズマ波の波長程度)
加速域自体が粒子と共に進む

- 入射波の振幅が大きければ加速も大きい

 現実にもそのような電場は起こせるのか？

衝撃波から出るメーザーが放射され大きな縦電場を
起こすという説がある